

Precision Engineering 誌の査読システム統合のお知らせ

精密工学会 校閲委員会

精密工学会会員から Precision Engineering (PE) 誌への論文投稿について、これまで国内校閲委員が独自で査読を担当してきましたが、2023年4月を目途に、PE 誌の Editorial board が担当する校閲プロセスに統合されます。これを受けて、国外研究者に査読される可能性が高くなるなど、投稿論文が受理されるために注意すべき点があります。以下のとおり関連情報をまとめて説明させていただきますのでご確認ください。

統合の経緯

PE 誌を精密工学会、ASPE、euspen の3学会合同で創刊した際、投稿受付、校閲、編集などのプロセスを3学会で統合し、どの論文も投稿地域外の査読者1名以上の審査を受けるようにすることで、PE 誌のクオリティや査読プロセスの公平性を保つよう合意されていました。しかし、精密工学会は過渡期の対応として独自の校閲システムを利用することも承認され、これまでに精密工学会会員から投稿された論文は精密工学会の校閲委員会の管理のもと、多くの場合、国内研究者が査読を担当してきました。一方で、ASPE および euspen の会員が投稿した論文は、PE 誌の Editorial board が管理する査読プロセスによって、同一基準の審査を受けています。その結果、精密工学会と他2学会の間で、採択される論文の分野の広がりには違いが生じたり、論文採択率が異なるなどの問題が生じています。

そこで、3学会間の重なる交渉を経て、どの国から投稿された論文も同じ基準で校閲し合否を判定できるよう、2020年10月に精密工学会の査読システムを Elsevier の Editorial Manager に移行する作業が完了し、2023年4月を目途に査読プロセスの完全統合を開始することになりました。

統合開始日

2023年4月を目途として、査読システムの統合を開始します。

投稿方法説明

- 投稿サイトアドレス（※これまでの投稿システムから変更されません）
<https://www.editorialmanager.com/PRECISENG>
- 投稿方法の主な変更点
 - 投稿時に、精密工学会会員であるかを問う項目がなくなります。
 - 精密工学会が指定するカバーレターのテンプレートが廃止されます。したがって、カバーレターに会員番号や分野を記入する必要がなくなります。

その他投稿方法の詳細につきましては、下記 Elsevier 社の PE 誌原稿作成ガイドページをご参照ください。

<https://www.elsevier.com/journals/precision-engineering/0141-6359/guide-for-authors>

注意事項

- Desk reject にならないために
精密工学会の校閲委員会による審査と比較すると、ASPE と euspen からの投稿論文を管理する Editorial board では、投稿論文を査読者に割り振る前に編集委員会によって掲載否の判断を行う、いわゆる Desk reject の割合がきわめて高いです。Desk reject となる主要因は、Out of scope（論文誌が扱うテーマ範囲から外れた論文）、もしくは英語文法の校正不足です。

まず、Out of scope について、精密工学会は、ASPE や euspen と比較すると、広範囲の工学分野を包括しています。しかしながら、査読システムの統合後は、「精密工学」(Precision engineering) というテーマに対して厳密に寄与する論文でないと Desk reject あるいは他誌への Transfer の判定を受ける可能性が高まります。今後、ロボティクス、加工技術、設計、トライボロジなどで、精密操作やマイクロ領域を扱っていない論文については、精密工学会誌（和文誌）へ投稿することをお奨めします。なお、精密工学会誌（和文誌）は、日本語論文だけではなく、英語で執筆された論文の投稿も受け付

けています。

また、英文校正について、Editorial board による Desk reject の判定基準は、きわめて厳しいです。英文校正サービスを利用するなど、正確な英語表現をもって論文を執筆するように、十分な対策をとってください。

➤ 論文賞応募方法について

PE 誌の掲載論文は精密工学会における論文賞の審査対象となっています。現行の仕組みでは「精密工学会を經由して投稿された論文に限る」ため、著者に精密工学会会員が含まれている論文のみが対象になっています。

査読システムの統合後も、PE 誌の掲載論文も審査対象となることは変わりませんが、投稿時に会員であるかを問う項目がなくなるため、審査委員会で判断できません。したがって今後、受賞候補者となるためには、精密工学会会員（投稿時）が含まれる論文の著者からの自薦による応募が必要となります。応募方法については毎年、精密工学会誌 8 月号に掲載されますので、ご参照の上ご応募ください。